

日本人口学会九州地域部会

2024年9月7日(土)に、福岡大学医学部にて第83回日本人口学会九州地域部会が開催され、沖縄、群馬、東京、そして福岡からの参加者により、講演・報告が行われた。筆者は「ICPD30「人口と開発」の30年: 何が変わり何が変わらないか」と題する報告を行った。同じ会場で、来年6月には第77回日本人口学会大会が開催される予定である。

(林 玲子 記)

第34回日本家族社会学会大会

2024年9月7日(土)から8日(日)の2日間にわたり、法政大学市ヶ谷キャンパスにて第34回日本家族社会学会大会が開催された(大会当日の参加者数244名)。自由報告はやや少なかったものの(35本)、テーマセッションが開催校企画国際セッションを含めて5つ実施されたことから、結果として例年並みの報告数(56本)であった。自由報告部会は、「結婚」「子ども・教育」「ネットワーク」「若者」「ケア・仕事」「子育て」「世代」「パートナーシップ」と人口学と密接なテーマが掲げられ、テーマセッションも性的マイノリティを主題としたものが2つあった。

1日目午後には、山田昌弘氏(中央大学)による会長講演(『『お金』と『愛情』の間、再考: 家族なき後? の家族社会学は可能か』)が行われた。総会後には、第3回奨励著書賞授賞式が執り行われ、孫詩域『家族育児の分担にみる夫と妻の権力関係——共働き家庭のペアデータ分析』(明石書店・2022年)と三品拓人『児童養護施設のエスノグラフィー——「実践」からみる子ども生活の社会学』(勁草書房・2023年)の2点が対象著書として選出された。2日目午後には、「研究法の活用から考える新時代の家族研究」と題したシンポジウムが開催され、サーベイ実験(五十嵐彰・大阪大学)、計量歴史社会学(渡邊大輔・成蹊大学)、会話分析(戸江哲理・神戸女学院大学)の家族社会学への発展可能性について報告・議論がなされた(討論者: 村上あかね・桃山学院大学)。

研究所からは、岩澤美帆(人口動向研究部長)と余田翔平(同部室長)が自由報告部会(「結婚」)、小山泰代(人口構造研究部室長)がテーマセッション(性的マイノリティの立場からみるパートナー・世帯・家族——『全国 SOGI 調査』の分析結果から)でそれぞれ口頭報告を行った。また、1日目午後には一般会計プロジェクト「第7回全国家庭動向調査」の一環として、テーマセッション『家族と女性の四半世紀——全国家庭動向調査を用いた計量的研究』を開催した。オーガナイザーと司会は齊藤知洋(社会保障基礎理論研究部研究員)が務め、竹内麻貴(国際関係部室長)と3名の外部委員が研究報告を行った(討論者: 保田時男・関西大学)。セッション参加者は約70名にのぼり、大変活発な議論がなされた。各報告のタイトルは以下のとおりである。

- ・岩澤美帆・余田翔平、「結婚の前駆から結婚の剥奪へ、そして結婚からの離脱へ——1982～2021年における未婚の類型化とその構成変化」
- ・小山泰代、「選択肢回答法による調査から見る世帯・家族の多様性」
- ・竹内麻貴、「認知的家事の分担と妻の生活満足度」
- ・松井真一、「子育て経験が子育て支援の提供に及ぼす影響」
- ・苦米地なつ帆、「親子の相互援助関係の実証分析——きょうだい構成に着目して」